

令和 6 年度

広島市平和推進基本条例第 8 条に基づく
平和の推進に関する施策の実施状況報告

令和 7 年 9 月
広島市

世界平和の推進

項 目	説 明
核兵器廃絶を目指した 取組の推進 (第7条第1号関係)	1 核兵器廃絶に向けた国内外の世論の醸成【市民局】(13,041千円) (1) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催(7,042千円) アルゼンチン・ブエノスアイレス市及びスロベニア・マリボル市において、長崎市と共同で原爆・平和展を開催した。 〔アルゼンチン・ブエノスアイレス市〕 ・ 期 間：令和6年10月2日～令和6年11月3日 ・ 場 所：リベルタ宮殿 ・ 入場者：7,438人 〔スロベニア・マリボル市〕 ・ 期 間：令和6年12月3日～令和7年2月28日 ・ 場 所：マリボル民族解放博物館 ・ 入場者：5,340人 (2) 国内原爆・平和展の開催(4,243千円) 東北地方2都市において原爆・平和展を開催した。 〔秋田市〕 ・ 期 間：令和6年7月13日～令和6年8月1日 ・ 場 所：土崎みなと歴史伝承館企画展示室 ・ 入場者：3,539人 〔郡山市〕 ・ 期 間：令和6年7月18日～令和6年7月31日 ・ 場 所：けんしん郡山文化センター展示室 ・ 入場者：2,452人 (3) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム(23千円) 国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。令和6年度は、創価大学の講座を新たに認定した。 ・ これまでの認定大学数：国内54大学、国外25大学 (4) 国内ジャーナリスト研修(763千円) 国内の若手ジャーナリストを対象に、被爆の実相や「ヒロシマの心」について総合的・体系的に学ぶ研修プログラムを開設し、研修の成果を報道や論説活動を通して広く国内外に発信してもらった。 ・ 期 間：令和6年7月28日～令和6年8月7日 ・ 参加者：10人 (5) 原爆写真展用資料の普及・活用(970千円) 原爆展を開催する国内外の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスターや映像資料等の貸出・提供を行った。 〔貸出点数〕 ・ DVD等映像資料、ポスター等：302点

項 目	説 明
	2 平和首長会議の充実強化【市民局】(59,839 千円) (1) 平和首長会議の活動展開 (45,570 千円) 平和首長会議加盟都市の市民、N G O 等と連携して世界恒久平和の実現を目指すため、平和首長会議行動計画に基づき、世界的な活動展開を図った。 〔実施内容〕 ・ 第 1 1 回N P T再検討会議第 2 回準備委員会への出席 ・ 核兵器禁止条約第 3 回締約国会議への出席 ・ 第 1 2 回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催 ・ 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開 ・ 平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・二世の苗木の配布 ・ こどもたちによる“平和なまち”絵画コンテストの実施 等 (2) 第 1 3 回平和首長会議理事会の開催 (9,007 千円) 英国・マンチェスター市で第 1 3 回平和首長会議理事会を開催し、令和 7 年 8 月に長崎市で開催する第 1 1 回平和首長会議総会の運営方針や今後の取組等について審議した。 ・ 期 間：令和 6 年 1 0 月 2 7 日～令和 6 年 1 0 月 3 1 日 ・ 場 所：英国・マンチェスター市 (3) 第 1 1 回平和首長会議総会の開催準備 (22 千円) 令和 7 年 8 月に長崎市で開催する第 1 1 回平和首長会議総会の円滑かつ効果的な運営に向け、各種準備を進めた。 (4) 平和首長会議インターンシップ (1,980 千円) 平和首長会議の加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議の取組に対する理解を深めてもらうことにより、各加盟都市との連携強化を図った。 また、国内加盟都市の職員を対象にオンライン研修を初めて開催し、各自治体における活動の活性化を図った。 〔海外加盟都市インターンシップ〕 ・ 期 間：令和 6 年 6 月 1 9 日～令和 6 年 7 月 3 日 ・ 参加者：2 人 〔国内加盟都市インターンシップ〕 全国的な大雪による交通機関への影響等を考慮し、中止した。 〔国内加盟都市職員を対象としたオンライン研修〕 ・ 期 日：令和 6 年 7 月 3 日 ・ 参加者：4 1 都道府県 2 0 9 自治体 2 2 9 人 (5) 世界平和都市連帯の呼びかけその他 (3,260 千円) 平和首長会議への加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。 〔実施内容〕 ・ 未加盟都市への加盟要請 ・ 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやソーシャルメディアでの公表 ・ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言文の送付 ・ メールマガジンの発行 等

項 目	説 明
	3 核軍縮・不拡散に関する国際会議等の誘致【市民局】(274 千円) 国(外務省)に出向き、核軍縮・不拡散等に関する様々な国際会議の広島開催や、世界の政治指導者等の広島・長崎訪問の働きかけを要請した。 4 平和宣言の作成・発信【市民局】(1,840 千円) 平和宣言を作成し、広く国内外に発信した。 〔実施内容〕 ・ パネル(和文、英文)の作成、掲示 ・ 読み上げ動画(日本語、英語)の作成及びホームページでの発信 ・ 外国語8か国語(スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語)への翻訳とホームページへの掲載 ・ 平和宣言文の作成、配布及び送付(和文・英文:各1万2,000部、点字:250部等) 5 国際平和シンポジウムの開催【市民局】(88 千円) 市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信のため、長崎市で開催されたシンポジウム「核兵器廃絶への道～核の脅威、多様性でのりこえる～」に参加するとともに、次年度の広島開催に向けた協議・調整を行った。 ・ 期 日:令和6年7月27日 ・ 場 所:長崎原爆資料館ホール ・ 参加者:約980人 6 国連軍縮フェローズの受入れ【市民局】(462 千円) 国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生(フェローズ)を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施した。 ・ 期 間:令和6年10月30日～令和6年11月1日 ・ 参加者:27人 7 NPT再検討会議等への高校生派遣事業【市民局】(7,018 千円) 第11回NPT再検討会議第2回準備委員会に、高校生を平和首長会議ユースとして派遣し、国連関係者に核兵器禁止条約の早期締結を求める署名を届け、ヒロシマのメッセージを発信するとともに、平和人材としての育成を図った。 ・ 派遣期間:令和6年7月20日～令和6年7月28日 ・ 派 遣 先:スイス・ジュネーブ市 ・ 派遣人数:高校生8人 8 国連ユース非核リーダー基金プログラムへの協力【市民局】(412 千円) 日本政府の拠出により国連が設立した国連ユース非核リーダー基金のプログラム参加者を受け入れ、被爆の実相を伝えとともに、若者との交流機会を提供した。 ・ 期 間:令和6年8月28日～令和6年8月29日 ・ 参加者:49人

項 目	説 明
	9 青少年国際平和未来会議の開催【こども未来局】(4,652 千円) 広島市の姉妹・友好都市等世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深める会議を広島市で開催した。 ・ 期 間：令和6年8月6日～令和6年8月14日（8泊9日） ・ 参加者：29人（6か国7都市）

項 目	説 明
平和意識の醸成 (第7条第2号関係)	1 中・高校生ピースクラブの開催【市民局】(1,611千円) 中・高校生を対象に、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。 ・ 期 間：令和6年5月～令和7年3月(全11回) ・ 参 加：中学生・高校生(55人) 2 若者による平和の誓いの集いの開催【市民局】(290千円) 「ヒロシマの心」を次世代に継承するため、若者が主体となって企画・運営する平和の誓いの集い「Peace Night Hiroshima 2024～星に届けるピース」を開催し、若者による平和宣言などを発信した。 ・ 期 日：令和6年11月16日 ・ 場 所：平和記念公園 3 若者による「ヒロシマの心」の発信【市民局】(533千円) 若者が主体的に「ヒロシマの心」を発信できるよう、被爆の実相に関する研修を行った。 ・ 対 象 者：主として広島で学生生活を送る大学生 ・ 参加者数：112人 4 ヒロシマ・ピースフォーラムの開催【市民局】(340千円) 広島市立大学と連携し、18歳以上で市内に在住又は通勤・通学している人を対象とする連続講座を開催した。 ・ 期 間：〔前期〕令和6年5月～令和6年7月(全3回) 〔後期〕令和6年10月～令和6年12月(全3回) ・ 参 加：〔前期〕83人 〔後期〕77人 5 折り鶴に託された思いを昇華させるための取組の推進【市民局】(2,147千円) 「原爆の子の像」に国内外から捧げられた折り鶴を、折り鶴再生製品の作成等に取り組む市民団体等に配付し昇華の取組を推進した。 ・ 配付団体：38団体 ・ 受入数量：約10.9トン ・ 使 用 量：約12.4トン 6 折り鶴再生紙によるピースメッセージ事業【市民局】(10,200千円) 平和記念資料館に修学旅行や平和学習で訪れた児童・生徒に対し、平和への思いを見学後も思い出してもらえるよう折り鶴再生製品(付箋)を配付した。 ・ 入館者数(修学旅行等)：33万1,302人 7 ジュニア向け平和学習用教材の作成【市民局】(1,501千円) 小学校3年生以下向けに分かりやすい平和学習用教材を作成した。 ・ 作成部数：3万2,900部

項 目	説 明
	8 平和文化の普及促進【市民局】(10,369 千円) (1) 平和文化月間におけるイベントの開催 (9,269 千円) 平和文化月間の取組を広島広域都市圏内市町にも拡大し、様々な機関や団体との連携の下、多様なイベントを通じて「平和」への思いの共有につながる「文化」の振興を図った。 ・ 時 期：令和6年11月 ・ 場 所：平和記念資料館、広島国際会議場など 〔実施内容〕 ・ 広島の復興の歩みを振り返る音楽プログラム及び平和文化講演会 ・ 若い世代を中心とした平和の取組のステージ発表・展示発表 ・ 朗読を中心としたステージ発表など 計86事業 (2) 平和文化普及促進事業 (1,100 千円) 市民生活に平和文化が根付くよう、「平和文化の振興」に関する冊子の作成やワークショップなどを行った。 〔実施内容〕 ・ 被爆ピアノコンサート ・ 平和文化ワークショップ ・ 「平和文化の振興」に関する冊子の改版（日本語版1万部、英語版5千部） 9 平和教育ウェビナーの開催【市民局】(409 千円) 平和首長会議の国内外の加盟都市等の青少年が、被爆・戦争体験と平和への願いを受け継いで行う取組を発表し、意見交換するオンラインセミナーを開催した。 ・ 期 日：令和7年2月18日 ・ 発表者：8名 10 こどもたちの平和文化活動支援事業【市民局】(1,687 千円) 小・中学生による多様な平和文化活動を奨励するため、学校活動として実施する絵画、習字、作文など平和をテーマとした創作活動に参加した児童・生徒に対して記念品を贈呈した。 11 スポーツを通じた平和意識の醸成【市民局】(100 千円) 広島東洋カープやサンフレッチェ広島の試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信した。 〔ピースナイター〕 ・ 期 日：令和6年8月14日 ・ 場 所：マツダスタジアム 〔ピースマッチ〕 ・ 期 日：令和6年8月1日 ・ 場 所：エディオンピースウィング広島 12 ひろしまこども平和の集い【市民局】(1,337 千円) 平和記念式典への参列等を目的に広島を訪れる青少年と広島の青少年が、被爆の実相を学ぶとともに、平和へのメッセージを発表するイベントを開催した。 ・ 期 日：令和6年8月6日 ・ 場 所：広島国際会議場 ・ 来場者：約1,200人

項 目	説 明
	13 G 7 広島サミット記念館の運営【企画総務局】(13,622 千円) 令和 5 年に開催された G 7 広島サミットを想起する代表的な品々等の展示等を通じて、市民・県民に、歴史的なサミットが広島の地において開催されたことを誇りに感じていただくとともに、若者を始めとする国内外の多くの来訪者に、G 7 各国首脳等の核兵器廃絶への思いを受け止めていただき、改めて平和について考えてもらう契機とするため、各国首脳等が訪れた平和記念公園内に展示施設を設置し、管理運営を行った。 ・ 公開期間：令和 6 年 5 月 1 9 日～令和 1 2 年 1 2 月末 ・ 来館者数：2 0 万 9, 7 8 1 人 14 ヒロシマ平和研究教育機構への負担金【企画総務局】(1,213 千円) 本市、広島市立大学、広島大学及び広島平和文化センターが連携して平和に関する研究、教育・人材育成、情報発信に取り組むため、4 者の参画により令和 6 年 1 月に設立した一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構の運営に要する経費等を負担した。 15 「第 2 回ひろしま国際平和文化祭」の開催【市民局】(140,502 千円) 市民や国内外から広島広域都市圏を訪れる人々が、多様で上質な音楽・芸術作品等に触れる機会を拡充し、平和への思いを共有する平和文化を振興するとともに、圏内の文化芸術活動の活性化、まちのにぎわいづくりや観光振興等を目的として、「第 2 回ひろしま国際平和文化祭」を開催した。 【主なイベント】 ・ オープニングイベント（ひろしま国際平和文化祭開会式） 期 日：令和 6 年 8 月 1 日 来場者：9 7 0 人 ・ ひろフェス夏祭り（ひろしま国際平和文化祭ファイナルイベント） 期 間：令和 6 年 8 月 3 1 日～令和 6 年 9 月 1 日 ※台風 1 0 号の影響により開催を中止した。 <音楽部門> ・ 第 2 回ひろしま国際指揮者コンクール 期 間：令和 6 年 8 月 4 日～令和 6 年 8 月 1 2 日 来場者：9 8 3 人 <メディア芸術部門> ・ ひろしまアニメーションシーズン 2 0 2 4 期 間：令和 6 年 8 月 1 4 日～令和 6 年 8 月 1 8 日 来場者：2 万 1, 2 6 5 人 <ストリートダンス部門> ・ ひろしまダンスコンペティション 期 日：令和 6 年 8 月 1 7 日、1 8 日、2 4 日、2 5 日 来場者：5, 2 0 0 人 16 キョウチクトウ及び被爆アオギリ二世苗木育成【都市整備局】(990 千円) キョウチクトウ又は被爆アオギリ二世の苗木を修学旅行で広島を訪れた学校等に対し、希望に応じて配布した。 ・ キョウチクトウ：1 3 本 ・ 被爆アオギリ二世：1 1 3 本

項 目	説 明
	17 平和教育プログラムに基づく平和学習の実施【教育委員会】 (3,693 千円) 平成25年度より、児童生徒の発達段階に即した平和教育プログラムによる学習を推進するとともに、地域の被爆体験者を講師として招へいする「被爆体験を聴く会」や、平和記念日に焦点を当て、学校や地域の特色を生かして行う「平和を考える集い」等の開催など被爆体験を原点とする学習を進め、平和教育の充実を図った。 ・ 「平和教育プログラム」：全校実施（小・中・高） ・ 「被爆体験を聴く会」実施園・校数：19園（幼）、102校（小）、41校（中）、8校（高）、1校（特支） ・ 「平和を考える集い」実施校数：140校（小）、64校（中）※広島中等教育学校を含む。 18 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施【教育委員会】(470 千円) 市内の各中学校に代表生徒1人を選出するよう働きかけ、69人をメッセージ発信者（メッセンジャー）として選出し、本市が進める平和教育、英語教育の成果を生かし、中学生自らが考えた英語による平和のメッセージを伝える活動を通して、中学生の平和への意識の高揚や英語力の向上を図った。 ・ 参加人数：2,544人 ・ メッセンジャー：69人 ・ 研修期間：令和6年6月1日～令和6年8月6日 19 小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信【教育委員会】 (902 千円) 小学校6年生児童を対象とした平和についての意見を発表する「こどもピースサミット」や、アメリカ、オーストラリアにある学校とのやり取り等による交流を行う「平和への誓いアクションプログラム」などを実施し、平和について発信する機会の充実を図った。 ・ 「こどもピースサミット」参加人数：1万424人 ・ 「平和への誓いアクションプログラム」実施校数：1校（小）、3校（中） 20 広島・長崎市児童生徒平和のつどい【こども未来局】(695 千円) 両市の児童生徒が、平和学習を通じて平和意識の高揚と被爆体験の継承を図るつどいを長崎市で開催した。 ・ 期 間：令和6年7月27日～令和6年9月7日 ・ 参 加：広島市児童生徒27人、長崎市児童生徒16人

項 目	説 明
被爆体験の継承・伝承 その他 (第7条第3号及び第4号関係)	1 被爆建物等保存・継承の推進【市民局】(48,456千円) (1) 民有被爆建物等保存・継承事業補助(26,903千円) 被爆樹木の樹勢回復措置に係る費用について補助を行った。 ・ 被爆樹木：安田学園ソメイヨシノほか2件 (2) 被爆樹木モニタリング等事業【市民局】(2,785千円) 樹木匠による被爆樹木モニタリング調査を行うとともに、本市所有の被爆樹木について樹勢回復措置を行った。また、民有被爆樹木の所有者に対し診断結果の報告をするともに助言を行った。 〔モニタリング調査〕 ・ 調査対象 46本 ・ 調査結果 良：0本 やや不良：6本 不良：29本 著しく不良：10本 枯死寸前：1本 枯死：0本 〔樹勢回復措置〕 ・ クスノキ(市営住宅南西側駐車場)ほか2本 (3) 被爆建物・被爆樹木めぐり【市民局】(45千円) 被爆建物や被爆樹木を講師に解説してもらいながらめぐる見学ツアーを開催した。 〔被爆建物めぐり〕 令和6年12月14日開催 ・ コース：江波山気象館、衣羽神社ほか2か所 ・ 参加人数：21人 〔被爆樹木めぐり〕 令和6年11月16日開催 ・ コース：鶴羽根神社、明星院ほか6か所 ・ 参加人数：18人 (4) 被爆遺構展示館管理運営【市民局】(5,875千円) 被爆遺構のモニタリング及び建屋(保存・展示施設)の維持管理や運営を行った。 (5) 平和記念資料館附属展示施設整備【市民局】(12,182千円) 平和記念資料館の附属展示施設に位置付ける予定の広島通信病院旧外来棟について、内装工事等の実施設計及び展示内容の検討を行った。 (6) 被爆建物等維持管理【市民局】(666千円) 被爆当時から現存する建物等を保存・継承するための事業を行った。 2 旧広島陸軍被服支廠の保存・継承【市民局】(19,348千円) 広島県が実施する安全対策工事に要する経費の一部を負担するとともに、国・広島県・本市で構成する「旧陸軍被服支廠の保存・継承にかかる研究会」において活用策の検討を進めた。

項 目	説 明
	3 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化【市民局】(17,486 千円) 平和記念資料館本館の展示資料の入替えを実施したほか、所蔵フィルムのデジタルデータ化を始めとする保存措置を講じた。また、被爆者証言ビデオのテキストデータ化や多言語化を進め、順次ホームページでの公開や YouTube での配信を行った。 4 被爆資料の収集等の強化【市民局】(5,130 千円) 被爆者やその遺族を訪問し、資料の寄贈を受けるとともに、国内外から受領・収集した資料等について、資料の精査及び調査・分析を行った。 5 平和記念資料館の発信力の強化【市民局】(33 千円) 国外に向けて被爆の実相を伝えるため、平和記念資料館のホームページの多言語化を進めた。 6 AI・VRを活用した被爆体験の継承【市民局】(1,925 千円) 被爆者の更なる高齢化が進む中、次世代への被爆体験の継承がますます困難な時期に差し掛かっており、今後、確実に到来する「被爆者がいなくなる時代」を見据え、新たな被爆体験継承の手法として、AIやVRなどのデジタル技術を活用し、被爆者の言葉や平和への思いを的確に後世に伝える取組を進めた。 7 青少年を中心とする平和文化イベントの開催【市民局】(965 千円) 被爆の記憶の風化を防ぐとともに、世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を訴えるため、青少年による平和に関するメッセージを中心とした平和文化イベントを開催した。 ・ 期 日：令和6年8月6日 ・ 場 所：広島国際会議場 8 平和学習講座【市民局】(234 千円) 講師を広島市内外の小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施するとともに、ウェブ会議システムを利用した講座を実施した。 ・ 実施回数：91回 9 ユースピースボランティア事業【市民局】(941 千円) 平和記念公園を訪れる外国人のほか、国連主催の研修への参加者や各国政府代表に対して、被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援した。 ・ ボランティア登録者数：133人 10 広島平和文化センター事業助成【市民局】(390,825 千円) 公益財団法人広島平和文化センターが実施するヒロシマピースボランティアなどの事業や法人の運営に必要な人件費等への助成を行った。 11 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業【市民局】(1,379 千円) 平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質の向上を図るための研修を実施した。 ・ 実施内容：総合研修（7回）、実技研修（話し方講座：1回、パソコン講座：2回）、英語研修（85回） ・ 参加人数：延べ956人

項 目	説 明
	12 海外へのオンライン被爆体験証言【市民局】(327 千円) ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行い、海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論の醸成を図った。 ・ 実施回数：6 か国 11 都市・13 回 ・ 聴講者数：478 人 13 修学旅行生への被爆体験講話等【市民局】(24,936 千円) 被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオの上映等を行った。 ・ 実施件数：1,866 件 ・ 参加人数：11 万 3,785 人 14 被爆体験伝承者等による伝承講話の実施【市民局】(6,739 千円) 平和記念資料館において伝承講話を定時開催したほか、市内会場への派遣及びウェブ会議システムを利用した伝承講話を実施した。 ・ 実施件数：2,019 件 ・ 参加人数：5 万 9,091 人 15 被爆体験伝承者等の養成【市民局】(1,475 千円) 被爆体験伝承者としての活動を希望する者(研修生)に対し、進捗状況に応じた研修を実施するなど被爆体験伝承者の養成に取り組むとともに、新たな被爆体験の掘り起こしのため、家族伝承者の養成にも取り組んだ。令和6年度は、被爆体験伝承者23人、家族伝承者3人が研修を修了した。 ・ 研 修 生：被爆体験伝承者197人(令和6年度応募者：67人) 家 族 伝 承 者 54人(令和6年度応募者：32人) ・ 研修期間：2年程度 16 原爆ドーム保存事業等基金への積立て【市民局】(637,041 千円) 原爆ドームの保存事業のほか被爆の実相を「守り、広め、伝える」事業の財源とするため、原爆ドーム保存事業寄附金、平和国際交流費寄附金、「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税寄附金、平和記念資料館観覧料改定に係る増収相当額等を基金に積み立てた。 17 「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税の推進【市民局】(70 千円) 平和の推進を目的として寄附した方に対し「広島平和記念資料館総合図録」、「カーブ坊やをデザインした折り鶴再生製品」などを贈呈品とするふるさと納税を推進した。 ・ 申出件数：24 件

項 目	説 明
	18 平和記念式典の開催【市民局・健康福祉局】(152,188 千円) 原爆投下から 79 年の平和記念日に当たり、遺族・市民及び各界有志参列の下に、原爆死没者の霊を慰めるとともに、世界恒久平和の実現を祈念することを目的として開催した。 また、式典の挙行に適した環境の確保について実効性のある対策の検討を行うに当たり、参列者向けのアンケート調査及び拡声機の音量測定を実施し、その結果を踏まえ、デモ行進の実施団体との協議を通じて、令和 7 年の式典の挙行に適した環境の確保に向けた合意とその遵守を担保する方策を検討した。 ・ 参列者数：約 5 万人 19 原爆被爆者動態調査【健康福祉局】(5,421 千円) 原爆による人的被害の実態及び被爆者世帯の被害状況を明らかにするために、本市が保有する被爆者情報に、新たに判明した原爆死没者や被爆者健康手帳交付者情報などを整理・統合化した。 20 史跡原爆ドームの保存・継承【市民局】(2,259 千円) 特別史跡の指定に向けて総括報告書を作成した。 21 原爆ドームの保存整備【都市整備局】(14,407 千円) 健全度調査について、史跡原爆ドーム保存技術指導委員会の助言・指導により、従来の足場設置による調査からドローン等を用いた調査に代替し実施した。 22 本川小学校の平和資料館運営【教育委員会】(3,694 千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：2 万 9,669 人 23 袋町小学校の平和資料館運営【教育委員会】(3,425 千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：2 万 7,816 人 24 ピースツーリズム推進事業【経済観光局】(5,750 千円) 外国人旅行者等の市内での周遊を促進するため、平和記念公園等を起点とした市内の主要な平和関連施設などを巡るルート等の情報を WEB サイトで発信するプロモーション等を実施した。 また、被爆 80 周年を迎えるに当たり、ルート等を紹介するリーフレットの更新を行った。 25 比治山公園「平和の丘」に係る取組の推進【企画総務局】(60,565 千円) 「平和へのメッセージ」を記す碑の設置や案内サインの改修などを行った。

項 目	説 明
	26 広島大学本部跡地の管理【企画総務局】(2,306千円) 広島大学旧理学部1号館について、機械警備等の管理を行った。 27 広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」の整備【企画総務局】(826千円) 広島大学旧理学部1号館を平和に関する教育研究等の新たな拠点としての整備に向け、アスベスト分析調査等を行った。 28 国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業【市民局】(485千円) 広島復興プロセスに関する教材を印刷・配布し、県・市が主催する研修・講座等で活用した。 29 平和記念資料館管理運営及び混雑対策【市民局】(476,187千円) 平和記念資料館の施設の管理運営に加え、被爆の実相・平和に関する資料の収集、保管、展示及び供用、平和学習や被爆体験の継承等平和を考える場の提供等を行った。 このほか、被爆の実相をより深く理解してもらうために、原爆被災に関する調査・研究やそれに基づく企画展を開催するとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う心をより多くの来館者に届けるため、バスガイド等観光事業従事者のための研修会を開催した。 加えて、非常に多くの来館者が訪れる資料館の混雑対策として、朝・夕1時間ずつの開館時間の延長、自動券売機やチケット認証機等から構成される入館システムの導入、WEBチケットシステムの運用及びキャッシュレス決済の拡充等、混雑緩和に資する多様な取組を実施した。 〔入館者数〕 226万4,543人 〔ホール利用件数〕 352件 〔企画展〕 ・ 「ともだちの記憶」 期 間：令和6年3月1日～令和6年9月10日 ・ 「新着資料展－令和4年度寄贈資料」 期 間：令和6年9月13日～令和7年2月25日 ・ 「ユネスコ『世界の記憶』登録候補 広島原爆の視覚的資料－1945年の写真と映像」 期 間：令和7年2月28日～令和7年10月6日